

【町長】

<p>通告順</p>	<p>5</p>	<p>質問 議員</p>	<p>長野議員</p>
<p>質問 項目</p>	<p>沼田っ子の命を守る信号機の設置を急げ</p>		
<p>質問 内容</p>	<p>沼田町は、交通事故死ゼロ運動4,000日をめざし継続中で、5月末日現在3,613日を更新しております。しかし、夜高パトロール隊として、心配な要注意箇所があります。</p> <p>本通りは、国道275号が東西に横断し、旭川方面への石油やセメントなどのタンクローリーなど大型車両の往来が激しい路線です。また、沼田学園・認定こども園が隣接し、スクールゾーン・キッズゾーンは総勢230名の通学路であり、大多数の児童生徒が利用する合流交差点になっています。</p> <p>手押し式を含め、6カ所の信号機が隣接していますが、ホクレンスタンド前の交差点には、未だ信号機がなく、児童生徒と通過車両運転手双方にとって大変危険な交差点になっています。</p> <p>交通安全は、保護者、子ども達を含め全町民の願いです。今年度夜高パトロール隊は、GW後も、コロナ禍や不慣れな新入生を心配する保護者の願いに応えるべく、子ども達自身が身を守ることのできるよう交通安全マナーを指導して来ました。</p> <p>しかし、高齢化が進む隊員のボランティア活動にも限度があります。近年、信号機増設は、大変ハードルが高くなっていると聞いていますが、子ども達の命より尊いものではありません。決して無事故が当たり前と思わず、危機感を持って万全の交通安全対策を推進していただきたい。町長の考えを聞きたい。</p> <p>(1) 今まで、本交差点の信号機設置は、数年前から町民要望があったと思うが、時系列で、文書でお示しいただくとともに、町長の考えを聞きたい。</p> <p>(2) 交通事故死ゼロ運動4,000日に向けて、今後の緊急対策、整備計画、手法など、どのように考えているのか聞きたい。</p>		



- ・ 小、中学生が登下校する
- ・ 大型車両が頻繁に通る
- ・ 信号機がない！



- 要注意箇所、2~4名が誘導に立つ
- 年間約70日の交通安全パトロールに立つ
- 70~80代の高齢パト隊員が支えている現状



- 大型車両が頻繁に横切る交差点！
- 年間約 200 日児童生徒が登下校する交差点！
- 無事故の奇跡が続くのはあたり前ではない！

【町長】

通告順	9	質問 議員	篠原議員
質問 項目	J R 留萌線存続に向けて		
質問 内容	<p>赤字路線の廃止問題は、留萌本線に限らず、J R 北海道全体の経営難の原因を地域利用の減少やコロナによるインバウンド利用の消滅に求めている限り、解決できません。鉄道先進地のヨーロッパ各国ではそもそも収支の均衡という発想がありません。</p> <p>J R 北海道は線路など鉄道インフラの維持と列車の運行を分ける『上下分離』方式を提案し、下の部分を沿線自治体に押しつけようとしています。その議論の土俵に乗る限り、例え部分存続であっても留萌線存続の可能性は薄いのではないかと考えられます。交通インフラは道路も港湾も空港も本来国の予算で維持されており、新幹線をのぞいて鉄道だけが1民間企業に押しつけられている矛盾を、まず国や道、J R 北海道に対して粘り強く訴える必要があると思いますが町長の考えを伺います。</p> <p>石狩沼田駅での愛着のある駅づくりということで、これまでも学生によるリノベーションなどが取り組まれ、一定の効果上げています。先日、函館線の妹背牛駅に公式キャラクターの牛をあしらった駅名標が設置され話題になりました。町内で研修をした高校生のアイデアによるものだそうです。沼田町内の駅にもさらにSNS映えする工夫が必要と考えますがどうですか。</p> <p>J R 北海道とアウトドア用品店を展開するモンベルが、4月26日地域経済活性化と環境保全を柱とした包括連携協定を結んだとの報道がありました。全国に100万人いるモンベルの有料会員に対し、J R が道内で主催する散策イベントなどをPRして道外観光客増加につなげるほか、地域の自然や文化を楽しむ周遊ルートの開発に取り組むとされています。現在モンベルが留萌駅に隣接して大型ショップの出店を計画していることを考えると、留萌線は留萌までつながっている必要があると考えますがどうですか。</p>		

# もせ「うし」 独自駅名標でPR JR北海道では初

04/28 22:15



牛のキャラクター「あいもちゃん」をあしらった駅名標をPRする田中一典町長（右）とJR北海道の職員＝妹背牛町のJR妹背牛駅

（北海道新聞電子版より）



# JR 北海道とモンベルが包括連携協定締結

JR北海道とアウトドア用品店を展開するモンベル（大阪）は26日、地域経済活性化や環境保全を柱とする包括連携協定を結んだ。全国に約100万人いるモンベルの有料会員に対し、JRが道内で主催する散策イベントなどをPRして道外観光客の増加につなげるほか、環境に配慮したサステナブルツーリズム（持続可能な観光）を推進する。

モンベルは、自転車やカヤックなど環境に優しい移動手段を使って地域の自然や文化を楽しむ周遊ルートを全国各地で設定しており、今回の連携で北見市やオホーツク管内大空町を巡る周遊ルートを両社で売り込む。JRは、モンベルなどが同管内で開催予定の屋外スポーツイベントに合わせた臨時列車を運行。道内の観光資源を活用した商品開発にも共同で取り組む。

札幌市内で記者会見したモンベルの辰野勇会長は「北海道はアウトドアのメッカ。われわれの事業と親和性が高い」と強調。JRの島田修社長は「鉄道利用の促進につながるよう知恵を出していく」と語った。（北海道新聞電子版より）

## 包括連携協定の概要

- ①自然体験の促進による環境保全意識の醸成に関すること。
- ②子どもたちの生き抜いていく力の育成に関すること。
- ③自然体験の促進による健康増進に関すること。
- ④防災意識と災害対応力の向上に関すること。
- ⑤地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化に関すること。
- ⑥農林水産業の活性化に関すること。
- ⑦高齢者、障がい者などの自然体験参加の促進に関すること。

（JR北海道とモンベルの共同リリースより）



# 留萌市が（株）モンベルと包括連携協定締結

留萌市は3月25日、株式会社モンベル（本社：大阪市）とアウトドア活動等の促進を通じた地域の活性化と市民生活の質の向上を目的とした「包括連携協定」を締結しました。

連携・協力事項は次のとおりです。

- (1) 自然体験の促進による環境保全意識の醸成
- (2) 子どもたちの生き抜いていく力の育成
- (3) 自然体験の促進による健康増進
- (4) 防災意識と災害対応力の向上
- (5) 地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化
- (6) 農林水産業の活性化
- (7) 高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進

株式会社モンベルは、1975年の創業以来、アウトドア用品の企画・製造・販売の領域を超えた様々な分野に活動の範囲を広げており、このたびの「包括連携協定」の締結により、当市の豊かな自然環境を活かしたアウトドア活動による地域の活性化や交流人口の拡大などを目指していきます。

（留萌市公式サイトより）

